

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者[※]の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

★なお、論文として公表後の修正には応じられません。

＜研究課題名＞

房室結節 - 心室間副伝導路を介する回帰性頻拍症例と同副伝導路を有する房室結節リエントリー性頻拍症例における電気生理学的特徴の探索的観察研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部内科系循環器内科学分野（附属板橋病院循環器内科）・准教授 永嶋 孝一

＜研究期間＞

機関の長の初回許可日 ～ 令和 8（西暦 2026）年 12 月 31 日

＜対象となる方＞

2015年1月1日～2025年12月31日の期間に、発作性上室頻拍に対して、心臓電気生理学的検査およびカテーテルアブレーションを施行し、房室結節-心室間副伝導路（nodoventricular pathway: NVP）の存在が示唆された方。

＜研究の目的＞

頻拍回路を形成するNVPと頻拍回路には直接関与しないバイスタンダーNVPの頻度、電気生理学的相違点、解剖学的走行を明らかにすること。

＜研究の方法＞

NVPが順行性回帰頻拍の回路を形成するものと、単なるバイスタンダーとして存在するものの頻度を比較する。また、両者の電気生理学相違を評価する。具体的には、洞調律時の心房・ヒス・心室間の間隔、通常の電気生理学的検査から得られる所見、頻拍中の心房・ヒス・心室間の間隔、右室期外刺激法による心房周期およびヒス束周期のリセットの有無・順番・最初にリセットが生じた連結期、右室エントレインメントペーシング中の逆伝導の同定・頻拍停止の有無とその停止様式、傍ヒス束ペーシング中の逆伝導の伝導時間等を解析する。また、両者の解剖学的走行を明らかにする。具体的には、心房端は右室期外刺激法による心房周期およびヒス束周期のリセットの順番で同定し、心室端は右室期外刺激法により心房周期およびヒス束周期がリセットされる部位をマッピングする。各ペーシングは、現在日常的に行われているマッピング方法として、有効性・安全性は確立されている。通常診療を超えた手技は一切使用しない。また、これらのペーシングにより得られたデータを後ろ向きに解析するため、患者に不利益は生じない。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

発作性上室頻拍に対して、日本大学医学部附属板橋病院および研究参加機関でカテーテルアブレーション施行歴のある方で、心電図や心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図、3D mapping systemデータ、外来検査データ、診療記録等を使用します。

＜研究を実施する機関組織＞

日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 丸山光紀
東京女子医科大学病院 循環器内科 樋口諭
埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科 森仁
奈良県立総合医療センター 循環器内科 阪井諭史
国立循環器病研究センター 心臓血管内科 鎌倉令
大阪南医療センター 循環器内科 長谷川新治
仙台市立病院 循環器内科 八木哲夫
北里大学病院 循環器内科 深谷英平
三菱京都病院 循環器内科 川治徹真
大阪労災病院 循環器内科 江神康之
秋田大学医学部附属病院 循環器内科 寺田健
札幌心臓血管クリニック 循環器内科 北井敬之
上尾中央総合病院 循環器内科 林健太郎
桜橋渡辺未来医療病院 循環器内科 岡田真人
小倉記念病院 循環器内科 福永真人
東京心臓不整脈病院 循環器内科 野上昭彦
三重大学医学部附属病院 循環器内科・腎臓内科学 土肥薫
多根総合病院 循環器内科 土井淳史
弘前大学大学院医学研究科 循環器内科学講座 伊藤太平
大手前病院 循環器内科 辻本大起
豊田厚生病院 循環器内科 金子鎮二

＜お問い合わせ窓口＞

研究責任者 循環器内科 永嶋孝一
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1 日本大学医学部附属板橋病院循環器内科
03-3972-8111（内線） 8142

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方